

ごあいさつ

平成28年度は、新年度の体制による運営が始まって早々の4月14日、16日に、最大震度7を記録する熊本地震が立て続けに発生し、各地で甚大な被害を受けました。被災された全ての皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、地震後より積極的なご支援、ご協力を賜りました皆様には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

当館はリニューアルオープンに向けて全館休館中で、改装工事を行っている状況下で被災し、施設の一部や資料が被害を受けました。地震発生直後から、職員は避難所運営などの災害対応業務に最優先で従事し、一時はリニューアルに関連する様々な業務も中断せざるを得ませんでした。そのため、中止した講座・イベント等がいくつもありました。

それでも、被災地の博物館である当館は本震後まもない時期に、以後、散逸あるいは廃棄処分される恐れのある「民間所有（被災）文化財等保全」の呼びかけを文書等で行い、ホームページに掲載したり関連団体に送信したりして周知を図りました。そして、被災資料の確認・修復作業、損壊した建物内から文化財や資料を搬出・保護するレスキュー作業等にも取り組んできました（詳しくは第I章『熊本地震の被害と対応』をご覧ください）。

地震から数ヶ月間は多くのイベントを中止しましたが、その後は被災した子どもたちのために市内の保育園や施設でモバイルプラネタリウム「星たまご」の上映を行うなど、徐々に学芸員の専門性を活かした業務も再開できるようになりました。このような、震災後の様々な活動を通して、博物館の役割を改めて考える機会を与えられたと感じています。

市内小中学校との連携を促進・強化する学校教育支援事業では、学校の要請に応じて学芸員を派遣する「ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）」やリニューアルオープン後に実施予定の「館内学習支援活動（お迎え事業）のためのプログラム作成」に継続して取り組んでいるところです。

地震から1年以上が経った今、多方面から様々な支援を頂きながら、当館はリニューアルオープンに向けた建築工事が佳境に入り、展示工事の準備も並行して進めています。

復興元年となる本年度、熊本博物館も地域の復興支援の一端を担うべく、多くの方に親しまれる魅力ある博物館を目指して、職員一同一丸となって取り組んでまいります。今後とも、より一層のご支援・ご協力、そして、ご指導を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつといたします。

平成29年6月
熊本博物館長 和田 仁

目 次

ごあいさつ

目次

I 熊本地震の被害と対応

1 地震の概要	1
2 熊本地震による博物館施設・設備・什器類の被害	1
3 熊本地震がリニューアル工事に与えた影響	2
4 資料の被害	5
5 地震対応業務	7

II 学芸活動

1 展示	14
2 企画展示会	14
3 教育普及	14
(1) 観察会・見学会	
(2) 教室・講座(子ども科学・ものづくり教室)	
(3) 学校教育支援事業	
(4) 総合的な学習の時間等への参加	
(5) 学校以外への講師参加	
(6) プラネタリウム	
(7) 同好会	
(8) 教職員研修	
(9) 博物館実習生の受け入れ	
(10) ナイス・トライ事業の受け入れ	
(11) 社会体験研修	
4 収集保存	29
(1) 資料のデータベース化	
(2) 寄贈資料	
(3) 資料の利用	
(4) 資料の保存	
(5) 資料整理作業	

5	報告	35
	(1) 「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」事業	
	(2) 地域連携の構築：日米自然科学博物館事業	
	(3) 館外での研修・調査（出張等報告）	
	(4) 熊本県博物館連絡協議会	
6	調査・研究及び刊行物	38
7	平成28年度熊本博物館活動概況一覧	40
III	運営	
1	利用状況	42
IV	資料	
1	運営組織	43
2	博物館協議会	44
3	博物館のあゆみ	45
4	施設概要	49
V	調査・研究	
1	江津湖の魚類相	
	～電気ショックー船調査での確認を中心に～ 清水 稔	53
2	ぷかぷか三葉虫を作ろう	
	～被災地熊本での防災教育プログラム実践報告～ 南部 靖幸	65
3	熊本地震と被災文化財の救出について	
	～ 一現場作業員の視点から ～ 竹原 明理	71
4	熊本博物館の防災対策と安全管理について	83
	甲斐 由香里	
VI	塚原歴史民俗資料館	
1	地震の被害と対応	89
2	概要	92
3	学芸活動	94
	(1) 教育普及	
	(2) 収集保存	